

「アクティブ・ラーニング」

- × 「アクティブ・ラーニング vs 一方向型授業」
- × 「アクティブ・ラーニング = 対話型授業」
- 「アクティブ・ラーニング
= 教科の深い理解につなげるための、児童生徒の状況を踏まえた柔軟な授業デザイン」

アクティブ・ラーニングの本質

- アクティブ・ラーニングを実現するためには、
 - △ 対話型・グループ型授業の導入
 - 教師が教育専門家としての専門性を磨くこと
- 具体的には、
 - －①児童生徒理解についての専門性
 - －②教科等についての専門性
 - ・「見方・考え方」

資質・能力を身に付けるための学習場面と認知の深まり

○学習指導要領は、教科の「知識及び技能」だけでなく、批判的思考力や論理的思考力、創造力などの「思考力、判断力、表現力等」や、他者と協働する態度、自己の学習をメタ認知する力などの「学びに向かう力、人間性等」という3つの資質・能力の育成を目指すもの。

○こうした力を育てるためには、アクティブ・ラーニングを進めて多様な学習の場面を設定し、認知を深めていくことが必要。

学びに向かう
力、人間性等

知識及び
技能

思考力、判断
力、表現力等

習得

活用

探究

学習のプロセスは往還的で、非直線的(e.g.探究を通じて習得に至る)

アクティブ・ラーニング

学習の場面

一人一人の思考

教師の説明を理解する

自分で考える

協働的な学び

教師に質問をする

自分の考えを説明する

教師やクラスメートからの質問に答える

他者の多様な考えを聞く

メタ認知

自分の考えを吟味し、必要な修正を行う

認知の深まり

公式や定理、事象などの概念を理解する

理解した概念を様々な課題に適用する

新たな概念と既知の概念の関連を理解する

学習した概念の背景などをより深く理解する

学習した概念と実社会・生活上の問題との関係について調べたり、理解する

→こうした学習経験をすることで、実社会・実生活でも必要となる学び方を学習することができる。

算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて

- 事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだす力
- 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数理化する力)

日常生活や
社会の事象

- D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
 - 様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

- B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
- 数学的な問題の本質を見いだす力(洞察力)
 - 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

焦点化した問題

- C 焦点化した問題を解決することについて
- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
 - 数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
 - 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

結果

A2 数学の事象における問題を数理的に捉えることについて

- 数学の事象から問題を見いだす力
- 事象の特徴を捉え、数理化する力
- 得られた結果を基に拡張・一般化する力

数学の事象

D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて

- 数学的な見方・考え方のよさを見いだす力
- 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
- 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
- 統合的・発展的に考える力

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づけわけではない

E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて

- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
- 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

F 学習に向かう力、態度について

- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
- 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

「見方・考え方」(高等学校学習指導要領地歴科解説編)

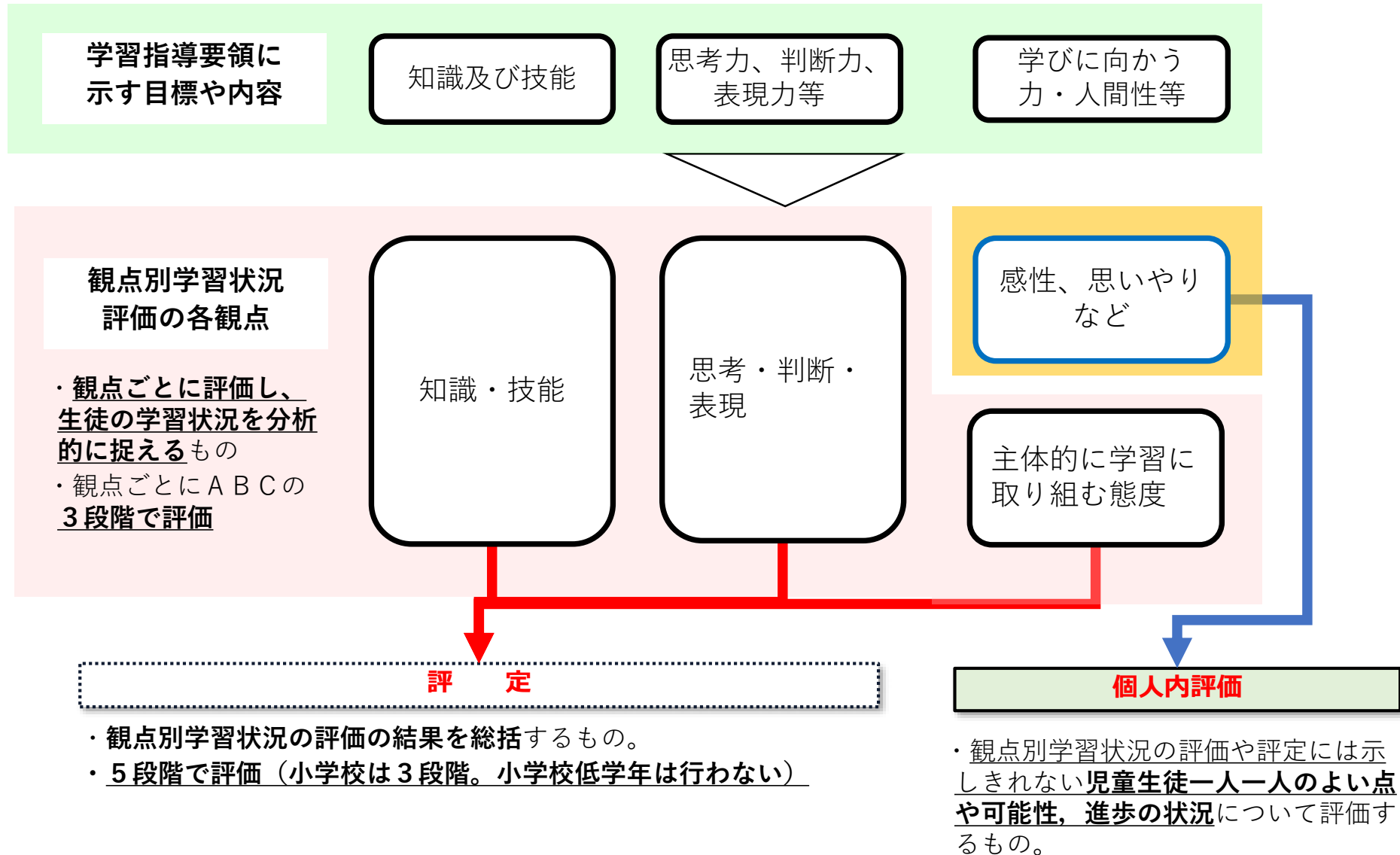
「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付け」で働かせる際の「視点や方法(考え方)」であると整理した。

すなわち、時期、年代など時系列に関わる視点、展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点、類似、差異など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など事象相互のつながりに関わる視点、現在とのつながりなどに着目して、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えることとして整理したものである。

(「3 歴史総合」より抜粋)

新学習指導要領に基づく評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は集団内での相対的な位置づけを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



学習評価に関する高校生等の意見

(中央教育審議会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」より抜粋)

「先生方の負担は増えると思うのですが、学校の授業内でも、テストの際だけでもいいので、どういう点がよかった、どういう点をもう少し頑張ってほしい、という一言だけでも毎回頂ければ、自分を向上させるための一つのきっかけになると考えます。」(新社会人)

「通知表で数字だけ示されても分からないので、中身をもっと提示してほしいと思います。...(観点別評価ではなく)数字での評価だけでは、そう評価された理由を推測することしかできないということがあります。」(高等学校三年生)

「私の通っていた高校では授業中に寝たらマイナス1点、発言したらプラス1点といったように、学力とは直接関係のないことをポイント化して評価を付けているという現状が実際にありました。...これだと、能力がある子ではなくて、真面目に授業を聞く子、それから、積極的に発言する子というのが評価されてしまいますので、それらを意欲として評価し、それによって評定値を上下させるというのは、評価の正当性に欠けていると思います。関心・意欲・態度という観点でポイントを付けたとしても、それは科目に対する意欲ではなくて、授業に真面目に取り組むという意欲なので、本来評価すべき点とすり替わってしまっていると、私は思っていました。」(大学一年生)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

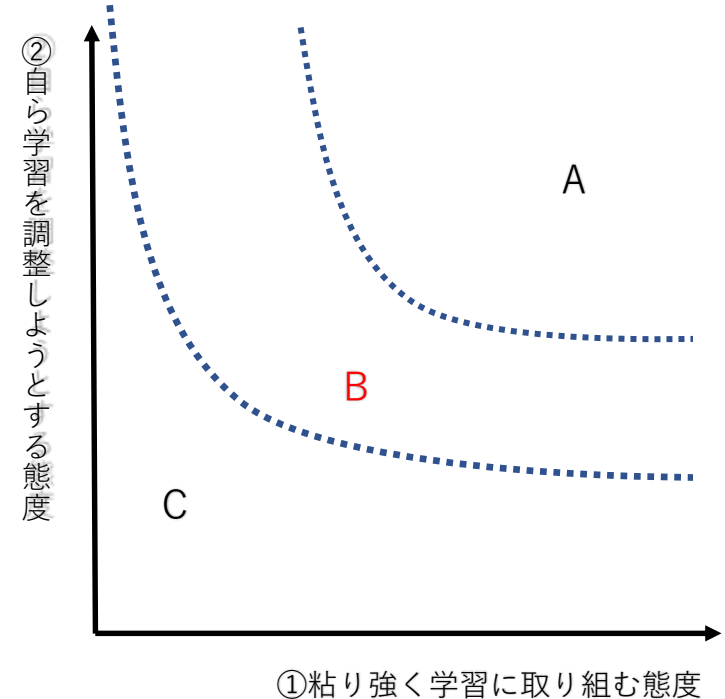
- 「関心・意欲・態度」の評価の課題
- この観点のみを取り出した評価は不適切
(観点相互の関係性、「CCA」「AAC」の問題)
－なぜ？
- ①(粘り強く取り組む側面)と②(学習を調整しようという側面)の両方を評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ（案）

児童生徒の学習評価の在り方について（これまでの議論の整理について）より（抜粋）

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、②①の粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている側面という二つの側面が求められる。」とされている。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



中央教育審議会教育課程部会児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より（抜粋）

「これまで、評価規準や評価方法等の評価の方針等について、必ずしも教師が十分に児童生徒等に伝えていないことがあることが指摘されている。しかしながら、どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、共有しておくことは、評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、児童生徒に各教科等において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせる観点からも不可欠であるとともに児童生徒に自らの学習の見通しをもたせ自己の学習の調整を図るきっかけとなることも期待される。また、児童生徒に評価の結果をフィードバックする際にも、どのような方針によって評価したのかを改めて共有することも重要である。」

「なお、評価については、記録を集めることに終始して、学期末や学年末になるまで必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価をするようなことがないようにしなければならない。」

「なお、例えば、地域のスポーツクラブにおける活動や各種の習い事、趣味に関する活動等、児童生徒が学校外で行う多様な活動については、必ずしも教師が把握することが求められるものではなく、在籍する学校における評価の対象になるものではない。そのため、こうした事項については、同じ資格等であっても、学校によって指導要録や調査書への記載の有無が異なる等の指摘もある。生徒が在籍する学校から提出される調査書は、あくまでも学校における活動の記録であることに留意した上で、入学者選抜を行う高等学校や大学等は、これに過度に依存することなく、生徒一人一人の多面的・多角的な姿を考慮するよう、本人からの提出書類、申告等を通じて確認するなどの工夫が求められる。」

（中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」